

# 高冷地における小麦生産について

佐久農業農村支援センター

## 1 留意点

長野県内で安定的に種子確保が可能な小麦品種では、適応地帯がいずれも「積雪地を除く 900m以下」となっており、標高 1000m 以上では冬季の凍みあがりや春の低温による凍霜害に遭う可能性が高いです。そのため、年によっては大幅な減収となる場合も覚悟の上で、栽培をお願いします。

## 2 品 種

### (1) パン用（強力粉向け）

品 種：ゆめかおり

適応地帯：積雪地を除く 700m以下

(参考)H23 年産立科町標高 1000m で 400kg/10a(粗玄麦重)を得ている。

H24 年産は立科 1000m、南牧 1300m いずれも凍み上がりで枯死。

種子確保：JA から購入など JA あさま西部営農センターで購入可能

### (2) 日本麺用（うどん・おやきなど中力粉向け）

品 種：シラネコムギ

適応地帯：積雪地を除く 900m以下

(参考)H23 年産立科町標高 1000m で 650kg/10a(粗玄麦重)を得ている。

H24 年産は立科 1000m、南牧 1300m で生育良好。

種子確保：JA から購入など 要相談

## 3 ほ場の準備

- ・水田や融雪後滞水しやすい排水不良のほ場では、排水溝を掘る。
- ・pHが5.5以下のほ場では収量が落ちるため、酸度矯正を行う(小麦の目標pHは6.0)。

## 4 播種時期・播種量

(1) 時 期：10月はじめ →越冬前の生育量を確保する

(2) 播種量：条間が 50~70cm の場合 5 k g / 1 0 a

ロータリー等による播種で条間が 30 cm 程度の場合 8 k g / 1 0 a

## 5 施肥管理

(1) 前作が野菜等で残肥が多い場合

①基肥：無施肥

②越冬後：生育状況により N3~5 k g /10a(硫安だと 15~25kg/10a)

③ゆめかおり→出穂後(5月下旬頃)、生育状況により N4 k g /10a

(硫安だと 20kg/10a)

シラネコムギ→出穂前(止葉展開期)、生育状況により N2~3kg/10a  
(硫安だと10~15kg/10a)

☆生育状況や施肥の判断については、普及センターへご相談ください。

## (2) 連作等で残肥が少ない場合

基肥：N7~8kg/10a で3要素含んだ配合肥料を施用。以降追肥は、(1)と同じ(必ず追肥をする)。

## 6 越冬性・凍み上がり対策

(1) 凍み上がり防止 ⇒鎮圧 (根雪になる地域では不要)

(2) 生育回復 ⇒芽が動き始めてから上記の越冬後追肥 ⇒莖数確保

## 7 赤かび防除

赤かび病の病原菌は麦で発生するカビの1種(ザリウム菌)で、人畜に対する毒素(DON)を産出します。高濃度のDONを含んだ小麦製品を摂食すると、吐き気、腹痛等を起こすといわれています。

高冷地では霧がまく状態が多く、感染しやすくなるといわれています。安全安心な農産物を供給するためにも、赤かび病の防除をお願いします。

### 【発生しやすい条件(発生好適条件)】

- ・開花期から10日程度の間、気温が20~27℃で降雨が多い場合。  
⇒高冷地では霧がまく状態が多く、感染しやすくなるのでは(農業試)
- ・追肥が過剰のほ場。 ・倒伏したほ場 ・凍霜害で不稔穎花が多いほ場

### 【発生好適条件に遭遇している場合の対応】

- ・発病：子のう胞子が感染条件下で夜~朝の間に飛散。開花後7~10日頃より穂に病徴現れる
- ・防除時期→開花を始めた時期~開花期(大小麦共に)
- ・防除薬剤  
「農作物病害虫・雑草防除基準」(長野県)の「麦類」の項に記載されている剤を使用する。または、普及センターへご相談ください。  
☆ドリフトに十分注意。
- ・多発が予測される場合は1回目散布から10日後に追加防除。1回目と異なる剤を使用する。
- ・出穂後からほ場を確認し、病徴の確認→発生が多い場合は刈り分け等の対応。
- ・耕種的防除：多窒素、遅効、倒伏を回避する。

## 8 収穫・乾燥

### (1) 収穫時期の判断

小麦の成熟期：莖葉及び穂首が完全に黄化し、粒に爪を立てると爪あとがわずかにつく状態。この状態の穂が全体の80%に達した日。

ア コンバインの場合 成熟期+5日以降

イ バインダーの場合 成熟期から収穫可能

☆収穫・乾燥・調整については別途ご相談ください。